

平成22年度決算 日置市財務諸表(普通会計)

バランスシート

地方公共団体における貸借対照表(バランスシート)とは、これまでの行政活動によって形成された道路、建物や土地などの資産とその資産を形成するために要した負債や財源との関係を表したものです。ここでいう資産とは、行政サービスを提供するために活用できる財産のことです。

道路や学校など市の施設や市有地の総額

資産 1,158.6億円
現在、市が保有する資産の総額

【住民の財産】

- 1. 公共資産 1,062億円
- 2. 投資等 44.9億円
- 3. 流動資産 51.5億円

出資金や積立てた基金などの総額

現金・預金、現金化しやすい市税など未収金の総額

負債 372.0億円
資産形成のために使われた金額
【将来世代の負担】

- 1. 固定負債 335.7億円
- 2. 流動負債 36.2億円

資産形成のための地方債や退職手当などの総額

純資産 786.6億円
【現世代の負担】
資産形成のためすでに支払った額

道路や学校整備などの財源として受けた国や県からの補助金・市税などの総額

バランスシートの比較〔対前年度〕

資産	負債	5.5億円減
15.1億円増	純資産	20.6億円増

資産増の要因...基金や現金預金の増加
負債減の要因...固定負債である地方債の減少
純資産増の要因...資産が増加し、負債が減少

住民1人あたりのバランスシート(対前年度)

資産	負債
225.9万円 (4.1万円増)	72.6万円 (0.6万円減)
純資産	153.3万円 (4.7万円増)

※平成23年3月31日
現在の住民基本台帳人口
51,300人で算定

行政コスト計算書

行政コスト計算書(民間では損益計算書)とは1年間の行政サービスのコストとその対価を表したものです。行政コストを種類別に区分して、どれにどれだけかかりそれに対する収入はどれくらいあるのかを把握できます。

① 経常行政コスト 行政サービスを提供するためのコスト	192.9億円	② 経常収益 行政サービスの直接対価としての収入	7.2億円
1. 人にかかるコスト	40.5億円	1. 使用料	4.4億円
2. 物にかかるコスト	62.0億円	2. 分担金・負担金・寄付金	2.7億円
3. 移転支出的なコスト	84.7億円		
4. その他のコスト	5.5億円	③ 純経常行政コスト(①-②)	185.7億円
		※資産変動計算書の純経常行政コストと一致	

※移転支出的なコストとは、扶助費、他団体への補助費、他会計への繰出金などです。

〔前年度との比較〕

①経常行政コスト 1.4億円減少 ②経常収益 804万円増加 ③純経常行政コスト △1.5億円減少

資金収支計算書

資金収支計算書とは、1年間の自治体における収入と支出を性質別に分類して、支出と財源の関係など資金の流れをみたものです。

〔前年度比較〕

○経常的収支	4.3億円増加
○公共資産整備収支	2.5億円減少
○投資・財務的収支	5.0億円増加
○収支全体	1.7億円増加

○今年度のプライマリーバランスは23.5億円で、前年度より2.7億円増加

※プライマリーバランスとは、地方債の新たな借入と返済を除いた収支のバランスを表します。

行政サービスにかかる収支

① 経常的収支	67.1億円
② 公共資産整備収支	△16.4億円
③ 投資・財務的収支	△46.7億円

当年度の資金増減額 3.9億円

前年度末の資金残高 7.2億円

今年度末の資金残高 11.1億円

※バランスシートの歳計現金と一致

道路や学校などの整備にかかる収支

投資・財務活動の資金の支出と収入

1年間の資金の変動額

純資産変動計算書

純資産変動計算書とは、バランスシートの純資産変動計算書の部が1年間でどう変動したのかをみたものです。

〔前年度比較〕

○純経常行政コスト	1.5億円増加
○経常収入	2.0億円増加
○臨時損益	1.5億円減少
○上記以外	1.3億円増加
○純資産残高	20.2億円増加

① 前年度の純資産残高 766.3億円

② 純経常行政コスト △185.7億円

③ 経常収入 208.1億円

④ 臨時損益 △1.7億円

⑤ 上記以外 △0.3億円

⑥ 今年度の純資産残高 786.6億円

※⑥=バランスシートの純資産合計と一致

行政サービスにかかった費用

地方交付税や地方税など

災害などで臨時にお金が必要だった

財務諸表4表からわかること(対前年度)

- 純資産が負債の2.1倍で、民間指標の標準である2倍を超え、健全であるといえます(前年度値 2.027倍)。
- 資産と比較して負債割合は低いものの、公共資産が多いことから、建物の修繕・建替などで将来にわたり多額の負担が予想されます。
- 流動比率は142.3%となり、前年度より22.2%増加しました。
※流動比率…1年以内に支払う金額への資産の余裕度(流動資産合計/流動負債合計)
健全な運営には100%~150%以上必要とされます。

※端数処理の関係で合計と一致しないものがあります。

平成22年度決算 日置市財務諸表(連結)

バランスシート

資産	1,382.1億円
【住民の財産】	
1. 公共資産	1,253億円
2. 投資等	53.5億円
3. 流動資産	74.7億円

負債	436.9億円
【将来世代の負担】	
1. 固定負債	391.1億円
2. 流動負債	45.8億円

純資産	945.1億円
【現世代の負担】	

行政コスト計算書

① 経常行政コスト	394.6億円	② 経常収益	93.2億円
1. 人にかかるコスト	47.2億円	1. 使用料	4.9億円
2. 物にかかるコスト	77.7億円	2. 分担金・負担金・寄付金	50.0億円
3. 移転支出的なコスト	257.9億円	3. 保険料	20.4億円
4. その他のコスト	11.7億円	4. 事業収益	15.3億円
		5. その他	2.4億円
		③ 純経常行政コスト(①-②)	301.4億円

資金収支計算書

① 経常的収支	74.1億円
② 公共資産整備収支	△19.9億円
③ 投資・財務的収支	△46.6億円
<hr/>	
当年度の資金増減額	6.8億円
<hr/>	
前年度末の資金残高	59.6億円
今年度末の資金残高	66.6億円

純資産変動計算書

① 前年度の純資産残高	930.5億円
<hr/>	
② 純経常行政コスト	△301.4億円
③ 経常収入	322.5億円
④ 臨時損益	△1.7億円
⑤ 上記以外	△5.2億円
⑥ 今年度の純資産残高	945.1億円